

【国語－１】

実践事例：小学校１年生 ／実施機関：宮田村教育委員会（長野県）

●教科における学習上の予想されるつまづくポイント

- ・文字や文の読み書きが苦手である。
- ・音声のみで聞いた内容を理解することが難しかったり、イメージ化ができなかったりする。
- ・集中が持続しないことによる聞き落としや理解不足が生じる。
- ・コミュニケーションの取りづらさのため、情報や感情を共有することが困難である。

【指導例】

1. 対象とした児童生徒の実態

(1) 対象の障害

- 自閉症 情緒障害 LD（学習障害）疑い ADHD（注意欠陥/多動性障害）
その他

(2) 子供の困難さ

- 見ること 聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと 動くこと
コミュニケーションをすること 気持ちを表現すること
落ち着くこと・集中すること 概念（時間、大きさ等）を理解すること
学習（計算、推論等）すること その他

- ・読み書きに関して苦手意識を持っており、学習意欲が持続しない。
・平仮名を読んだり書いたりすることが困難である。

2. 教科における学習上のつまづきを把握するための方策

(1) 実態把握の時期

1学期

(2) 実態把握の方法（実施者・方法）

- ・担任による日常的な読み書きの実態観察
- ・平仮名４６字の読み書き確かめテスト

3. 指導内容

(1) 教科における学習上のつまづきの内容

- ・文字を見て読むことが困難。一字一字の拾い読みで、単語として読み取れない。
- ・平仮名の手本を見て、同じように書き写すことが難しい。

(2) つまづいている背景・原因

- ・識字及び書字の困難さ

(3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

(i) 授業における全体指導、個への指導について

- ・言葉集めや読み聞かせなどで、言葉への興味・関心を高めた。
- ・児童がスムーズに学習に取り組めるよう、平仮名の習得過程をパターン化した。
- ・意欲が高まるように、動作化や劇化など体を動かす活動を取り入れた。
- ・物語の内容を視覚的に理解できるよう、単元導入時に絵本やスライドショーを活用した。
- ・平仮名カードを使い、読めたカードの枚数で学習結果の可視化を図った。
- ・担任と一緒に音読し、単語に着目できるような問答を重ねた。
- ・書くことができた文字をほめ、達成感や意欲を引き出すようにした。

(ii) 個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）

- ・特になし。

(4) (3) の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

- ・入学時に7字だった「平仮名の読み」は、すべての清音が読めるようになった。
- ・書くことにも意欲的に取り組むようになった。
- ・文の内容に興味をもち、情景や心情を思い浮かべながら物語文を読んで「すごくおもしろかった」という感想を持つことができた。

【国語－２】

実践事例：小学校２年生 ／実施機関：宮田村教育委員会（長野県）

●教科における学習上の予想されるつまづくポイント

- ・文字や文の読み書きが苦手である。
- ・音声のみで聞いた内容を理解することが難しかったり、イメージ化ができなかったりする。
- ・集中が持続しないことによる聞き落としや理解不足が生じる。
- ・コミュニケーションの取りづらさのため、情報や感情を共有することが困難である。

【指導例】

1. 対象とした児童生徒の実態

(1) 対象の障害

- 自閉症疑い □情緒障害 □LD（学習障害） □ADHD（注意欠陥/多動性障害）
- その他

(2) 子供の困難さ

- 見ること □聞くこと □話すこと □読むこと □書くこと □動くこと
- コミュニケーションをすること ■気持ちを表現すること
- 落ち着くこと・集中すること □概念（時間、大きさ等）を理解すること
- 学習（計算、推論等）すること □その他

- ・話し手の目を見て聞くことが難しく、一斉指導が通りにくい。
- ・質問に対して、思い付きで答えることが多い。
- ・友達の考えと自分の考えを比べることが難しい。

2. 教科における学習上のつまづきを把握するための方策

(1) 実態把握の時期

1学期

(2) 実態把握の方法（実施者・方法）

- ・既習漢字の習得率調査
- ・前年度からの持ち上がり担任による観察

3. 指導内容

(1) 教科における学習上のつまづきの内容

- ・教師や友達の話の内容を正しく聞き取ることが難しい。
- ・物語の登場人物の心情を理解することが難しい。

(2) つまずいている背景・原因

- ・集中を持続することの困難さ。
- ・識字、および文字からイメージすることの困難さ。

(3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

(i) 授業における全体指導、個への指導について

- ・登場人物のお面を作り、その役になりきって音読するようにした。
- ・座席に座って読むほかに、立ち上がって移動したり、ペアで読んだり、床に座って友達の発表を聞いたりする活動を取り入れた。
- ・文字を見やすくするため教科書に補助シートを置き、指で追って読むようにした。

(ii) 個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）

- ・特になし。

(4) (3) の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

- ・音読の場面では、叙述にそって心情を表現しようとして、音読の仕方を工夫する姿が見られた。
- ・音読発表をすすんでやりたがり、発表後の級友からの感想も嬉しそうに聞いていた。

【国語－3】

実践事例：小学校2年生 / 実施機関：宮田村教育委員会（長野県）

●教科における学習上の予想されるつまづくポイント

- ・文字や文の読み書きが苦手である。
- ・音声のみで聞いた内容を理解することが難しかったり、イメージ化ができなかったりする。
- ・集中が持続しないことによる聞き落としや理解不足が生じる。
- ・コミュニケーションの取りづらさのため、情報や感情を共有することが困難である。

【指導例】

1. 対象とした児童生徒の実態

(1) 対象の障害

- 自閉症疑い 情緒障害 LD（学習障害） ADHD（注意欠陥/多動性障害）
 その他

(2) 子供の困難さ

- 見ること 聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと 動くこと
 コミュニケーションをすること 気持ちを表現すること
 落ち着くこと・集中すること 概念（時間、大きさ等）を理解すること
 学習（計算、推論等）すること その他

- ・興味をもてなかったり難しいと感じたりする活動には取り組もうとしないことが多い。
・落ち着きがなく、感情の制御がむずかしく、友達とのトラブルも多い。

2. 教科における学習上のつまづきを把握するための方策

(1) 実態把握の時期

1 学期

(2) 実態把握の方法（実施者・方法）

- ・既習漢字の習得率調査
- ・前年度からの持ち上がり担任による観察

3. 指導内容

(1) 教科における学習上のつまづきの内容

- ・語彙が少なく、理解できないことが多い。

(2) つまづいている背景・原因

- ・感情を制御して、学習に向かうことの困難さ。
- ・学習意欲が低いことによる、語彙の不足。

(3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

(i) 授業における全体指導、個への指導について

- ・物語教材のシリーズ絵本をあらかじめ読み聞かせ、学級文庫において物語になじんでから学習に入った。
- ・場面ごとのワークシートは、文字情報を少なく、挿絵と吹き出しだけにしたものを使った。

(ii) 個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）

- ・特になし。

(4) (3) の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

- ・事前に絵本に親しんでいたことで、登場人物に気持ちを寄せて読んだり書いたりすることができた。
- ・ワークシートを配ることを伝えると「嫌だ、やりたくない。」とつぶやいて姿勢がくずれたが、挿絵と吹き出しだけのワークシートを見ると安心した表情で「どんどん書いてやる。」と意欲的に取り組んで書くことができた。
- ・学習のまとめでは、3人の登場人物にあてて、いたわりの言葉をかける内容の手紙を書くことができた。

【国語－４】

実践事例：小学校３年生 ／実施機関：宮田村教育委員会（長野県）

●教科における学習上の予想されるつまづくポイント

- ・文字や文の読み書きが苦手である。
- ・音声のみで聞いた内容を理解することが難しかったり、イメージ化ができなかったりする。
- ・集中が持続しないことによる聞き落としや理解不足が生じる。
- ・コミュニケーションの取りづらさのため、情報や感情を共有することが困難である。

【指導例】

1. 対象とした児童生徒の実態

(1) 対象の障害

- 自閉症疑い 情緒障害 LD（学習障害）疑い ADHD（注意欠陥/多動性障害）
その他

(2) 子供の困難さ

- 見ること 聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと 動くこと
コミュニケーションをすること 気持ちを表現すること
落ち着くこと・集中すること 概念（時間、大きさ等）を理解すること
学習（計算、推論等）すること その他

- ・話を一回で聞き取ったり、文を読み取ったりすることが難しい。
・文字を読んだり書いたりすること全般に苦手意識がある。

2. 教科における学習上のつまづきを把握するための方策

(1) 実態把握の時期

1学期

(2) 実態把握の方法（実施者・方法）

- ・既習漢字の習得率調査
- ・担任による観察

3. 指導内容

(1) 教科における学習上のつまづきの内容

- ・漢字の読み書きや、文章を読むことが難しい。
- ・音読が苦手で、時間がかかる。

(2) つまづいている背景・原因

- ・理解している漢字や語彙の少なさによる、文のまとまりを意識して読むことの困難さ。

(3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

(i) 授業における全体指導、個への指導について

- ・「ちいちゃんのかげおくり」の単元に入る前に、同時代を題材にしたアニメを見たり、大型絵本の読み聞かせをしたりして視覚的援助を行い、時代背景や語彙の理解を図った。
- ・わからなくても友達のことを聞くことで自分の考えがもてるよう、ペア学習を取り入れた。
- ・考えを書きやすいよう、吹き出し型のワークシートを使用した。

(ii) 個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）

- ・特になし。

(4) (3) の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

- ・ワークシートに自分なりの考えを書くことができた。
- ・ペアの友達に書き方を教えてもらい、吹き出しの中に書くことができた。
- ・ペアの友達と分担をして、一緒に発表をすることができた。

【国語－５】

実践事例：小学校４年生 ／実施機関：宮田村教育委員会（長野県）

●教科における学習上の予想されるつまづくポイント

- ・文字や文の読み書きが苦手である。
- ・音声のみで聞いた内容を理解することが難しかったり、イメージ化ができなかったりする。
- ・集中が持続しないことによる聞き落としや理解不足が生じる。
- ・コミュニケーションの取りづらさのため、情報や感情を共有することが困難である。

【指導例】

1. 対象とした児童生徒の実態

(1) 対象の障害

- 自閉症 情緒障害疑い LD（学習障害） ADHD（注意欠陥/多動性障害）
その他

(2) 子供の困難さ

- 見ること 聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと 動くこと
コミュニケーションをすること 気持ちを表現すること
落ち着くこと・集中すること 概念（時間、大きさ等）を理解すること
学習（計算、推論等）すること その他

- ・集中が持続せず、すぐにぼうっとなってしまうと、理解できないことが多い。
・話し合いへの参加は少なく、友達の意見を聞いていないことが多い。

2. 教科における学習上のつまづきを把握するための方策

(1) 実態把握の時期

1学期

(2) 実態把握の方法（実施者・方法）

- ・既習漢字の習得率調査
- ・担任による観察

3. 指導内容

(1) 教科における学習上のつまづきの内容

- ・学習課題を理解することが難しい。
- ・自分で考えて課題を解決しようとする意欲がもちにくい。

(2) つまづいている背景・原因

- ・学習に対して集中を持続することの困難さ。

(3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

(i) 授業における全体指導、個への指導について

- ・ 夏休み明けを想定した詩の場面と心情をイメージしやすいよう、2学期第2日に授業を行った。
- ・ 学習課題を理解しやすくするため、詩の作者を選択肢から選んだり、題を当てたりするワークシートを使用した。
- ・ 作者の表現上の工夫に気付かせるため、担任による改作との比較をするようにした。

(ii) 個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）

- ・ 特になし。

(4) (3) の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

- ・ 「夏休みが楽しかったな、もうちょっと長ければよかったのになあ、という気持ちが込められていると思う」と発言。詩の内容に自分の今の状況を重ねて読んでいる様子うかがわれた。
- ・ 内容に関心をもち、平易な課題であったことから、よく集中して取り組み、友達の意見も関心をもって聞く姿が見られた。
- ・ 詩に関心をもてたことで、その後の別の詩の学習でも、意欲的に学習に取り組むことができた。

【国語－6】

実践事例：小学校5年生 / 実施機関：宮田村教育委員会（長野県）

●教科における学習上の予想されるつまづくポイント

- ・文字や文の読み書きが苦手である。
- ・音声のみで聞いた内容を理解することが難しかったり、イメージ化ができなかったりする。
- ・集中が持続しないことによる聞き落としや理解不足が生じる。
- ・コミュニケーションの取りづらさのため、情報や感情を共有することが困難である。

【指導例】

1. 対象とした児童生徒の実態

(1) 対象の障害

- 自閉症 情緒障害疑い LD（学習障害）疑い ADHD（注意欠陥/多動性障害）
その他

(2) 子供の困難さ

- 見ること 聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと 動くこと
コミュニケーションをすること 気持ちを表現すること
落ち着くこと・集中すること 概念（時間、大きさ等）を理解すること
学習（計算、推論等）すること その他

- ・集中が続かず、私語や手いたずらが多い。
・聞いたり読んだりしたことがらをイメージすることが難しい。
・音読の工夫の仕方がわからず、棒読みになりがち。

2. 教科における学習上のつまづきを把握するための方策

(1) 実態把握の時期

1学期

(2) 実態把握の方法（実施者・方法）

- ・既習漢字の習得率調査
- ・担任による観察

3. 指導内容

(1) 教科における学習上のつまづきの内容

- ・内容をよく理解しようとする前に直感で反応してしまう。
- ・面倒くさがって学習に取り組もうとしないことが多い。

(2) つまずいている背景・原因

- ・言葉に対する関心の低さや苦手意識

(3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

(i) 授業における全体指導、個への指導について

- ・詩「からたちの花」をイメージしやすいように、植物の実物や写真を見せた。
- ・学習カードを使って、気づいたことを書き込んだり好きなところに線を引いたりした。
- ・音読の仕方を工夫して、友達と聞き合った。

(ii) 個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）

- ・特になし。

(4) (3) の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

- ・からたちのとげを実際に見て触れたことで、「からたちのとげはいたいよ 青い青い針のとげだよ」という表現を理解することができた。とげの鋭さを、声をはっきり出して音読することで表現し、友達から認められていた。
- ・とげの鋭さとの対比として「まろいまろい」や「やさしかったよ」をなめらかに読みたいと考え、家庭でも音読練習を工夫してくる姿が見られた。
- ・実物を見たことで詩の内容に関心を持ち、音読への意欲につながった。

【算数－１】

実践事例：小学校１年生 ／実施機関：宮田村教育委員会（長野県）

●教科における学習上の予想されるつまずくポイント

- ・学習問題の意図が理解できにくい。（ADHD、ASD、読み書き障がい等による、問題文から、具体的なイメージをすることができにくい）
- ・図形の問題に関して、どの部分に注目していいのかわかりにくい、平面や空間の認識ができにくい。また、図形の分解、合成などの処理が難しい。
- ・筆算の計算式などにおいて、手順が混乱しやすい。順序立てて考えることが難しい。
- ・単位の変換が苦手である。量的な感覚が捉えることが困難である。
- ・立式や計算、作図、グラフ化など、できないことによる、意欲の減退が大きい。

【指導例】

1. 対象とした児童生徒の実態

(1) 対象の障害

- 自閉症 情緒障害 LD（学習障害） ADHD（注意欠陥/多動性障害）
その他

(2) 子供の困難さ

- 見ること 聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと 動くこと
コミュニケーションをすること 気持ちを表現すること
落ち着くこと・集中すること 概念（時間、大きさ等）を理解すること
学習（計算、推論等）すること その他

- ・一斉指導では、指示や声かけが伝わりにくい。
・具体物や図などと数が結びつかない。計算の操作で意味がとらえられない。

2. 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

(1) 実態把握の時期

- ・１年時

(2) 実態把握の方法（実施者・方法）

- ・医師による診断
- ・担任の授業観察による判断

3. 指導内容

(1) 教科における学習上のつまずきの内容

- ・１年「足す」「引く」の数的意味をとらえられない。また、関する言葉を理解できない。

(2) つまずいている背景・原因

- ・集中の継続が難しい。数的な言葉の意味が理解できない。

(3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

(i) 授業における全体指導、個への指導について

- ・「足す」「引く」に関しての動作化（手を合わせる、払う、離す、指を使うなど）を行った。また、数図ブロックや図などの可視化を図った。
- ・教師は、必要時に本児へ問い返しを行い集中の維持を図った。
- ・学習の定着場面では空く時間がないように、本児の力に適合する十分な量の練習問題を用意した。

(ii) 個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）

- ・学習支援員が入り、必要時に助言等、働きかけを行った。

(4) (3) の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

- ・集中して取り組む環境を整えたり、具体物の操作、動作化によって、数字と実物の意味の一致が見られ、5や10の固まりを理解するに至った。
- ・できることの積み重ねにより自信をつけ、支援員や担任の声かけが無くても、自ら練習問題に取り組めるようになってきた。
- ・具体物や動作化を用いずに、計算ができるようになった。

【算数－２】

実践事例：小学校２年生 ／実施機関：宮田村教育委員会（長野県）

●教科における学習上の予想されるつまずくポイント

- ・学習問題の意図が理解できにくい。（ADHD、ASD、読み書き障がい等による、問題文から、具体的なイメージをすることができにくい）
- ・図形の問題に関して、どの部分に注目していいのかわかりにくい、平面や空間の認識ができにくい。また、図形の分解、合成などの処理が難しい。
- ・筆算の計算式などにおいて、手順が混乱しやすい。順序立てて考えることが難しい。
- ・単位の変換が苦手である。量的な感覚が捉えることが困難である。
- ・立式や計算、作図、グラフ化など、できないことによる、意欲の減退が大きい。

【指導例】

1. 対象とした児童生徒の実態

(1) 対象の障害

- 自閉症 情緒障害 LD（学習障害） ADHD（注意欠陥/多動性障害）
その他

(2) 子供の困難さ

- 見ること 聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと 動くこと
コミュニケーションをすること 気持ちを表現すること
落ち着くこと・集中すること 概念（時間、大きさ等）を理解すること
学習（計算、推論等）すること その他

- ・数字を整えて書くことの困難さがあり、計算が正しくできない。
・黒板の数式を正しくとらえることができない。

2. 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

(1) 実態把握の時期

- ・1年時

(2) 実態把握の方法（実施者・方法）

- ・医師による診断
- ・担任によるスクリーニングテスト

3. 指導内容

(1) 教科における学習上のつまずきの内容

- ・2年「3けたの数のひっさん」で位をそろえて書くことができない。

(2) つまずいている背景・原因

- ・自分では正しく書いているつもりでも、何をどうそろえるか意味を含め、具体的に理解ができていない。また、マスに対しての意識ができない。

(3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

(i) 授業における全体指導、個への指導について

- ・ノートを使用せずに、B4の紙と中字のペンを使用して数字を大きく書けるように場を保証した。
- ・電子黒板で本児が書いた式をそのまま拡大して、繰り返し位取りや計算について声出しを行い、意味理解の定着を図った。

(ii) 個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）

- ・少人数のグループで授業を行い、周りの状況に意識が左右されないようにした。
- ・授業教室は普通教室の半分の空間で、周囲に電子黒板、黒板以外は物を置かなかった。

(4) (3) の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

- ・B4の紙や電子黒板の利用で、計算に対する抵抗感が軽減され、進んで取り組めるようになり、学習の定着が図られた。
- ・個別の配慮を続けることで、位取りの意識ができるようになり、マスのノートの利用につながった。

【算数－３】

実践事例：小学校３年生 ／実施機関：宮田村教育委員会（長野県）

●教科における学習上の予想されるつまずくポイント

- ・学習問題の意図が理解できにくい。（ADHD、ASD、読み書き障がい等による、問題文から、具体的なイメージをすることができにくい）
- ・図形の問題に関して、どの部分に注目していいのかわかりにくい、平面や空間の認識ができにくい。また、図形の分解、合成などの処理が難しい。
- ・筆算の計算式などにおいて、手順が混乱しやすい。順序立てて考えることが難しい。
- ・単位の変換が苦手である。量的な感覚が捉えることが困難である。
- ・立式や計算、作図、グラフ化など、できないことによる、意欲の減退が大きい。

【指導例】

1. 対象とした児童生徒の実態

(1) 対象の障害

- 自閉症 情緒障害 LD（学習障害） ADHD（注意欠陥/多動性障害）
その他

(2) 子供の困難さ

- 見ること 聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと 動くこと
コミュニケーションをすること 気持ちを表現すること
落ち着くこと・集中すること 概念（時間、大きさ等）を理解すること
学習（計算、推論等）すること その他

- ・時間が「進む」「戻る」などの言葉の意味に混乱がある。
・算数セットの模型の時計を上手に扱うことが困難である。

2. 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

(1) 実態把握の時期

- ・２年時

(2) 実態把握の方法（実施者・方法）

- ・医師による診断
- ・担任のビデオによる判断

3. 指導内容

(1) 教科における学習上のつまずきの内容

- ・３年「時間の長さ」の単元で、時計に関する言葉を理解できない。
- ・針の動きと数量的な意味が一致していない。

(2) つまずいている背景・原因

- ・言葉の意味の理解が不十分。
- ・時計の動きと時刻、時間の数感覚が不十分。

(3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

(i) 授業における全体指導、個への指導について

- ・毎時間、スタート時に i P a d の利用を個別に許可し、既習事項の確認から学習に入った。
- ・i P a d のアプリの活用で「進む」「戻る」等の言葉を繰り返し、視覚的に触れられるようにした。
- ・教師用の時計の大型模型を個別に利用させた。

(ii) 個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）

- ・特になし

(4) (3) の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

- ・i P a d の利用で、意欲的に学習に取り組むと共に、言葉の理解が広がり、定着が図られた。
- ・時計の大型模型は本児にとって扱いやすく、針と数字が一致して考えられるようになった。

【算数－４】

実践事例：小学校４年生 ／実施機関：宮田村教育委員会（長野県）

●教科における学習上の予想されるつまずくポイント

- ・学習問題の意図が理解できにくい。（ADHD、ASD、読み書き障がい等による、問題文から、具体的なイメージをすることができにくい）
- ・図形の問題に関して、どの部分に注目していいのかわかりにくい、平面や空間の認識ができにくい。また、図形の分解、合成などの処理が難しい。
- ・筆算の計算式などにおいて、手順が混乱しやすい。順序立てて考えることが難しい。
- ・単位の変換が苦手である。量的な感覚が捉えることが困難である。
- ・立式や計算、作図、グラフ化など、できないことによる、意欲の減退が大きい。

【指導例】

1. 対象とした児童生徒の実態

(1) 対象の障害

- 自閉症 情緒障害 LD（学習障害） ADHD（注意欠陥/多動性障害）
その他

(2) 子供の困難さ

- 見ること 聞くこと 話すこと 読むこと 書くこと 動くこと
コミュニケーションをすること 気持ちを表現すること
落ち着くこと・集中すること 概念（時間、大きさ等）を理解すること
学習（計算、推論等）すること その他

- ・位取りのとらえに困難さがある。
・空位の意味を理解できにくい。
・できないことに対する抵抗感から、教科に対しての抵抗感が強い。

2. 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

(1) 実態把握の時期

- ・４年時

(2) 実態把握の方法（実施者・方法）

- ・スクールカウンセラーの参観による判断
- ・担任の授業観察、対象児ノート記録の確認

3. 指導内容

(1) 教科における学習上のつまずきの内容

- ・４年単元「１億をこえる数」において万単位以上の数字をとらえることができにくい。

(2) つまづいている背景・原因

- ・空位の意味が理解できにくい。
- ・量的な感覚が十分でない。

(3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

(i) 授業における全体指導、個への指導について

- ・位取りシートを補助教具として渡して、枠と合わせて、数字を読み取るようにした。
- ・定着の程度を判断して、位取りシートの4桁ごとの単位をなくした4桁ごとの色別のシートを利用した。
- ・さらに定着が進んだところで、枠だけのシートの利用にした。
- ・初期の段階から、声を出して桁を確認することを繰り返し、音声による数字認識を意識できるようにした。

(ii) 個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）

- ・少人数による取り出しグループにおいて学習を行った。

(4) (3) の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

- ・段階的な位取りシートの活用で、スモールステップとなり、着実な定着が見られた。
- ・少人数学習では、似たような困難さのある子と一緒に学習をする中で、安心して学習に取り組むことができ、友だちと声をかけ合って教え合う場面も見られた。

【算数－５】

実践事例：小学校５年生 ／実施機関：宮田村教育委員会（長野県）

●教科における学習上の予想されるつまずくポイント

- ・学習問題の意図が理解できにくい。（ADHD、ASD、読み書き障がい等による、問題文から、具体的なイメージをすることができにくい）
- ・図形の問題に関して、どの部分に注目していいのかわかりにくい、平面や空間の認識ができにくい。また、図形の分解、合成などの処理が難しい。
- ・筆算の計算式などにおいて、手順が混乱しやすい。順序立てて考えることが難しい。
- ・単位の変換が苦手である。量的な感覚が捉えることが困難である。
- ・立式や計算、作図、グラフ化など、できないことによる、意欲の減退が大きい。

【指導例】

1. 対象とした児童生徒の実態

(1) 対象の障害

- 自閉症 □情緒障害 □LD（学習障害） ■ADHD（注意欠陥/多動性障害）
- その他

(2) 子供の困難さ

- 見ること □聞くこと □話すこと □読むこと □書くこと □動くこと
- コミュニケーションをすること □気持ちを表現すること
- 落ち着くこと・集中すること □概念（時間、大きさ等）を理解すること
- 学習（計算、推論等）すること □その他

- ・小数÷小数の計算において、小数点が気にかかり困惑し、計算を進められない。
- ・既習の割り算に立ち返りにくい。

2. 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

(1) 実態把握の時期

- ・５年時

(2) 実態把握の方法（実施者・方法）

- ・スクールカウンセラーの参観による判断
- ・担任の授業観察

3. 指導内容

(1) 教科における学習上のつまずきの内容

- ・５年の小数の割り算の計算を行うのが困難である。筆算の手順が混乱し、定着しない。

(2) つまずいている背景・原因

- ・小数点に対して、特別な意識が働き、既習している割り算の筆算の手順に立ち返ることができない。

(3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

(i) 授業における全体指導、個への指導について

- ・これまでの割り算の筆算と基本的には同じということを伝える。
- ・ノートに4年の割り算を筆算でやらせるが、対象児は混乱が残り取り組まなかったため、i P a dを渡し、気持ちを切り替えるとともに4年時の割り算を画面上で行った。

(ii) 個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）

- ・休み時間に個別に補習を行い、定着を確認した。

(4) (3) の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

- ・i P a dの使用により、落ち着きが見られ、集中する時間が増加すると共に、5年の計算式に生かしていくことができた。
- ・5年の小数の計算では、「できないこと」の繰り返しで、自信をなくし、発言がなかったが、i P a dを必要時に取り入れる学習をしばらく続けると、聞く態度の向上や発言が見られるようになった。

【算数－6】

実践事例：小学校6年生 / 実施機関：宮田村教育委員会（長野県）

●教科における学習上の予想されるつまずくポイント

- ・学習問題の意図が理解できにくい。（ADHD、ASD、読み書き障がい等による、問題文から、具体的なイメージをすることができにくい）
- ・図形の問題に関して、どの部分に注目していいのかわかりにくい、平面や空間の認識ができにくい。また、図形の分解、合成などの処理が難しい。
- ・筆算の計算式などにおいて、手順が混乱しやすい。順序立てて考えることが難しい。
- ・単位の変換が苦手である。量的な感覚が捉えることが困難である。
- ・立式や計算、作図、グラフ化など、できないことによる、意欲の減退が大きい。

【指導例】

1. 対象とした児童生徒の実態

(1) 対象の障害

- 自閉症 □情緒障害 □LD（学習障害） ■ADHD（注意欠陥/多動性障害）
□その他

(2) 子供の困難さ

- 見ること ■聞くこと □話すこと □読むこと □書くこと □動くこと
□コミュニケーションをすること □気持ちを表現すること
■落ち着くこと・集中すること □概念（時間、大きさ等）を理解すること
□学習（計算、推論等）すること □その他

- ・問題に示された図形のどこの部分に注目すればいいかわからない。
・場面が展開されると、見ていることと、聞くことがとらえにくくなる。
・黒板を注視することが続かない。

2. 教科における学習上のつまずきを把握するための方策

(1) 実態把握の時期

- ・5年時

(2) 実態把握の方法（実施者・方法）

- ・医師による診断
- ・担任のビデオによる判断

3. 指導内容

(1) 教科における学習上のつまずきの内容

- ・6年「円の面積」で問題を解くための図のイメージができにくい。

(2) つまずいている背景・原因

- ・集中の継続が難しいために図形の変化、説明等の必要な情報が統合できない。

(3) (1) に対し実施した指導方法、工夫した点

(i) 授業における全体指導、個への指導について

- ・電子黒板でデジタル教科書を利用して指導した。
- ・動画部分を一気に流さず、5つに分割して示した。
- ・教室では最前列の座席とした。
- ・確認等の本人への声かけを行いつつ授業を進めた。

(ii) 個別指導について（取り出し指導、通級による指導との連携など）

- ・周りの状況に意識が左右されないように少人数のグループで授業を行った。
- ・授業教室は普通教室の半分の空間で、周囲に電子黒板、黒板以外は物を置かなかった。

(4) (3) の効果・評価（児童生徒の様子や変容および授業の評価）

- ・黒板、電子黒板を注視する時間が長くなった。
- ・授業中の聞き返しが、以前3～4回だったものが1回程度に減った。
- ・授業中に「うなずく」「なるほど」等の理解が進んだと思われる動きが増えた。
- ・単元テストの定着率が約10%向上した。